

オレイオオコウモリに着目した沖縄北部における 野生鳥獣とタンカン農家の関係の評価

Charemtantanakul Weerach

キーワード: タンカン、*Citrus tankan*、野生鳥獣、沖縄、オオコウモリ、*Pteropus dasymallus*

1. 背景

沖縄本島北部地域では2016年度における野生鳥獣による農作物の被害金額は5940万円に及び、その被害の大部分はタンカンなどの柑橘類で生じた(沖縄県、私信)。また、IUCN (Vincenot 2017) のレッドリストで「絶滅危惧Ⅱ類」と指定されたオレイオオコウモリ *Pteropus dasymallus inopinatus* もタンカンの主な害獣の一つとされている。そのため、本研究は沖縄本島北部地域におけるタンカンの鳥獣被害の現状、そして農家とオレイオオコウモリとの軋轢が引き起こす当該種への潜在的な脅威について検討することを目的とした。

2. 方法

本研究では以下の3つの調査を実施した。1) 過去の被害状況を把握するため沖縄本島北部地域における野生鳥獣による農作物の被害状況記録を6ヶ所の市町村役場から入手した。2) 各種の鳥獣が及ぼした被害量、そして危惧されているオレイオオコウモリの捕殺の現状を調べるため、43人のタンカン農家に聞き取り調査を行った。3) 2017年度の各種の野生鳥獣の被害を確認するため、自動撮影カメラによる調査を実施した。

3. 結果

市町村の鳥獣被害記録とタンカン農家の聞き取り調査の結果には同様の傾向が見られ、カラスによる被害が最も大きく(53-56%)、次いでオレイオオコウモリによる被害(18-28%)となった。自動撮影カメラによる調査では2017年度に確認できた被害の中ではカラスによる被害がほとんど(92%)であり、その残りはオレイオオコウモリ(8%)であった。市町村の記録による野生鳥獣の被害量はその年の台風の強度と有意な関係が見られた。タンカン農家への聞き取り調査によると、2017年度は鳥獣被害が少なかった。また、聞き取り調査から、2007年から2017年までの間に2000頭以上のオレイオオコウモリがタンカン農園で捕殺されたことが確認された。

4. 結論

本研究により、沖縄本島北部地域のタンカンに関してはカラスによる被害量が最も大きいことが示された。次いでオレイオオコウモリの被害が大きかったが、その被害は年によって大きな変動があった。また、多数のオレイオオコウモリがタンカン農園の防鳥網に引っかかって死んでいたことから、従来の農作物における鳥獣被害予防方法は本絶滅危惧種の生存を脅かしている恐れがあることが示唆された。

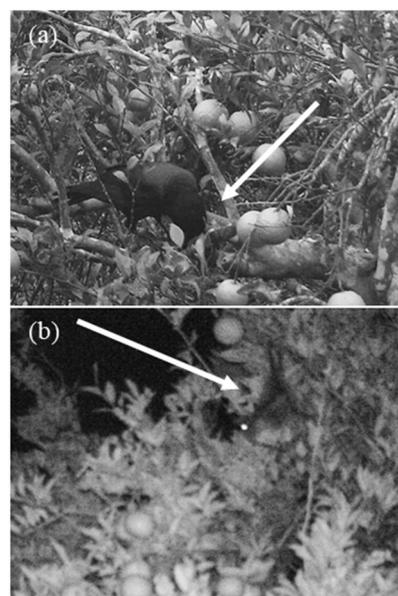


図1 自動撮影カメラによって確認された鳥獣:

- (a) ハシブトガラス
- (b) オレイオオコウモリ

参考文献

Vincenot, C. 2017. *Pteropus dasymallus*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2017*: e.T18722A22080614. <http://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2017-2.RLTS.T18722A22080614.en>. Downloaded on 05 December 2018.